

令和 3 年度 世田谷区立希望丘小学校 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立希望丘小学校
学校関係者評価委員会
委員長 藤原桂子

○回収率

児童 94.0％(1～6年生) 保護者 85.4％(1～6年生) 地域 50.0％(回収 15、配布 30)

○評価方法

- ① 児童・保護者・地域のアンケートを実施した。評価はA（とても思う）B（思う）C（あまり思わない）D（思わない）E（わからない）の5段階。
- ② A+Bを肯定的評価とし、C+Dを否定的評価とした。肯定的評価をベースに評価したが、否定的評価・分からないが15%以上の項目については個別に検討した。（小数点以下四捨五入）
- ③ 今年度の評価に当たり、次のように対応した。
児童のアンケートについては、5、6年生については教育委員会が定めた評価項目とし、1～4年生については、キャリア教育の項目を省き、他の項目は分かりやすく書き直したアンケートを独自に作成した。保護者と地域の方には、アンケート依頼時に「学校関係者評価に向けて」と題して学校の様子を記した文書を添付して評価の参考にしていただくとともに、「一人一言」用紙を添付して、自由に記述していただいた。
- ④ 初めに重点目標について評価し、次に教育ビジョンに沿って評価した。
- ⑤ アンケートと一人一言に基づいて評価した他、学校の自己評価、配布物、ホームページ等を資料とし、学校公開・運動会等を参観し、総合的に評価した。

○総合所見

昨年に引き続き、コロナ禍2年目の今年度も、まん延防止等重点措置と緊急事態宣言の繰り返いで、子どもたちは、いろいろな制約の中での学校生活を余儀なくされました。4月から9月までに予定されていた行事は殆ど延期され、分散登校やオンライン授業が終わってから多くの行事が行われました。短期間での実施となり、それぞれの行事の目標達成に向かう学校の努力や工夫が問われるものでもありました。運動会や学芸会等では参観の仕方が工夫され、生き生き活動する子どもの姿を見たり教職員のきびきびと指導する姿勢を見たりすることにより、保護者や地域の方々から「感謝している」と評価されました。

また重点目標に関しては、今年度は肯定的評価 80%を「達成の目安」として評価を行いました。この観点から3つの重点目標は概ね達成されました。9月からの分散登校でタブレットを使用したオンライン授業を行うなどの工夫をし、教育計画を実施し続けたことについて、「一人一言」でもよい評価が寄せられていました。しかし、まだ活用の不慣れであるとか、音声や接続、扱いが難しいなど、改善すべき点が見られます。学校としてさらに研修や研究を積み重ね、教職員の資質向上を図り、教育環境を充実・整備して、より教育目標を達成されることを期待します。

○重点目標に沿った評価

重点目標1 学力の向上及び授業力の向上

「豊かな知力の育成：主体的な学習活動を重視し、思考力や表現力を育てる」

本校では「教科書解説型授業」から脱却し、課題解決的な学習課題の展開に向けた授業改善と、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善に取り組むという目標を立てている。保護者もこの点をよく理解しているようで、「一人一言」に、「子どもたちの意見を引き出し分かりやすく指導していただいている」「自分で考え行動するようになった」「タブレット学習によって他者の意見が見やすく多くの視点を持てるようになった」などのコメントがあった。またアンケートでは、児童の「課題について自分で考えたり、友だちと考えたりする時間を授業の中でとっている」の肯定的評価が 82%、「考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」91%と高評価である。目標を達成しているといえよう。

重点目標 2 思いやりの心の育成

「豊かな人間性の育成：思いやりの心をもって行動できる子どもを育てる」

本校では、「呼び捨て」を一掃し、週目標に「望ましい言葉遣い」を取り上げ、生活スタンダードに「言葉遣い」を新設し、自尊感情や自己有用感を育成するとともに、思いやりの心を育むことも目標にしている。保護者の「一人一言」にも、「友だちを呼び捨てでなく、さん・くんで呼ぶようになった」「よりよい言葉遣いや細やかな指導のおかげで情緒が安定し、学校の雰囲気がよくなっている」「友だちを思いやる習慣がついた」「シーンに応じたあいさつやお礼を言えるようになった」のコメントがある。

アンケートでも、「学校のルールについて考えて行動している」は保護者 88%、児童 86%、「進んであいさつする」は保護者 81%、児童 86%、「相手の気持ちを考えた言葉遣い」は保護者 78%、児童 81%と高評価である。概ね目標を達成しているといえる。

重点目標 3 体力の維持・増進

「健やかな身体の育成：健康な体づくりに心がける子どもに育てる」

本校では、体育の授業と行間運動を工夫・改善するために、持久力や巧みな動きなど、取り組む内容や質の向上を図り、体力の向上を維持させる活動を充実させること、また休み時間の校庭・体育館の使用学年を調整し、全校児童が一日に一回は身体を動かす機会を設けることを目標にしている。アンケートでは、保護者の「体力や健康な生活に取り組んでいる」が 95%、「積極的に運動したり身体を動かしたりしている」が 81%、児童の「運動や身体を動かすことが楽しい」が 85%と評価している。また「好き嫌いなく食べる」も児童 83%、保護者 87%であり、目標を達成しているといえる。

○教育ビジョンに基づく評価

① 学習指導について

新学習指導要領では、児童の話合いや発表を重視するが、児童の「授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある」が 91%と高評価である。ICT 機器の利用面では、「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」が、児童は 85%、保護者も 81%と評価している。「一人一言」でも「子ども同士で考えたり評価したりする機会が多い」と肯定的である。

先生方が熱心に授業改善をした結果がアンケートにも表れており、「学校生活は楽しい」は児童 87%、保護者 93%と高評価である。児童の「学校が好き」82%、保護者の「本校の教育活動に満足している」は、昨年度から 17 ポイント上げて 89%に評価を上げた。

宿題については、児童の「家庭で宿題や e ラーニングなどの ICT 機器を利用した学習をしている」80%、保護者の「自ら進んで宿題をする子に育っている」77%とやや低い。

「算数の少人数制」については、児童 79%、保護者も 79%とやや低いが、「一人一言」では、「算数では能力別指導をしていただいているので、分からないまま取り残されることなくできている」と学習効果を認めている。

他方で、読書については、「よく本を読んでいる」について、児童 77%、保護者 65%（否定的評価 28%）と低かった。

② 生活指導

昨年度からルールについて児童に考えさせるよう、学習指導要領が変わった。児童の「先生は、学

校のきまりを守らない児童に注意している」93%、「先生に注意されたことは理解できる」93%、「学校のきまりを守って行動している」86%と、児童は前向きに評価している。保護者も、「学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」88%と、先生の指導を評価している。「一人一言」でも、「何がいけなかったのか、児童が自分で考えるような注意の仕方をしていて、児童たちのことを考えてくださっていると感じた」とのコメントがあった。

③ 行事

今年度はコロナ禍ではあるが、学校行事をできるだけ実施するとの方針の下、教員が工夫をして開催した。運動会は10月に延期して行い、「すぐる」を活用した進行状況の案内による保護者の入替え、新校舎屋上の開放などの工夫を重ねて実施した。「一人一言」でも、「運動会のプログラムは午前中だけでありながら大変充実していた」「運動会は全学年の協調性と主体性を実感できた」「進行状況をすぐるで知らせていただけるなど、スムーズに見学できた」「先生方が一生懸命取り組んでいるのがよく伝わってくる」などの評価を得ている。

学芸会については、当初は保護者鑑賞日を設けない予定であったが、児童や保護者の想いや願いと感染状況を見て、保護者にも入替制で観覧ができるように変更した。「一人一言」では、「学芸会が素晴らしく、練習を通じて子どもたちがいきいきと役を演じる姿に成長を感じる」「保護者も急遽観覧できるようにしていただき感謝している」など感謝の言葉が多かった。

遠足については、全学年とも秋に実施でき、集団行動を学ぶ良い機会となった。「遠足は久しぶりで今までの学校生活の中で一番楽しかったようだ」などのコメントがあった。

アンケートでも、「学校行事は楽しい」は児童93%、保護者98%、児童の「達成感がある」は92%、「意欲を大切にしている」89%と高く評価している。地域も「充実している」が87%、「地域への配慮がある」は93%と高評価である。

希望っ子班活動について、「希望っ子班活動は大切」は、保護者が88%に対し、児童は80%であり、否定的評価が16%、特に6年生が23%など高学年生の評価が低い。その理由を分析し、対策を講じていただきたい。「一人一言」で保護者は、「他学年との交流、高学年としての自覚、いろいろ考えて感じることもあるようだ」「他学年と関われる希望っ子班活動を楽しみにしているので続けてほしい」と好評である。継続を希望する声が多いので、児童数の増加の中で、どのように本校の伝統的な活動を継続していけるか、検討していただきたい。

④ 学校運営

保護者の「保護者に学校の重点目標を伝えている」が88%、地域の「重点目標が明確」が100%であった。他方、地域の「学校運営委員会は活動を周知し役割を果たしている」が60%と低かった。学校運営委員会の内容については便りなどで地域にも周知していく必要がある。また「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」も50%であった。コロナ禍で学校協議会が開かれなかったことで、評価ができなかったのであろう。

⑤ 教職員

教職員への信頼度は高く、児童の「ていねいに指導してくれる」は93%、保護者の「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」は86%と高い評価である。他方で、児童の「先生に相談できる」は76%（否定的評価17%）となっていることに留意したい。「一人一言」では、教職員への感謝の言葉が多かった。

⑥ 広報・情報提供

保護者の「様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」は88%と高評価であるが、「学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」77%、地域の「学校公開や道德授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」は53%（「分からない」が40%）であった。コロナ禍で学校公開や道德授業公開講座が延期になったためであろう。「一人一言」では、「すぐるでの連絡事項の配信は親側として抜け・漏れがなくなり、助かっている」の声がある一方、「コロナ禍で学校との関わりが減り、学校の様子が分かりにくくなった」などの声があった。

保護者の「ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」は 64%（否定的評価 26%）と低い。「一人一言」でも、「ホームページは定期的にチェックできていない」「充実させてほしい」などのコメントがあった。公開型のホームページと、個別型のすぐるやロイロノートの使い分けについて、学校としての考え方を示していく必要性が高まっていると思われる。

⑦ 地域との連携

保護者の「地域の人や施設を教育活動に生かしている」が昨年度からさらに 5 ポイント下がって 67%、「分からない」が 25%もあった。今年度は希望丘スタディ（きぼスタ）を除いて、「地域の昔話」や「船橋小径の会」等の授業協力が行われず、地域の方と触れ合う機会が減ったためと考えられる。また、保護者の「本校は地域の活動に協力的である」が昨年度からさらに 4 ポイント下げて 64%（「分からない」31%）と低くなった。原因を探り対策を講じていただきたい。「一人一言」でも、「きぼスタは学習習慣がつくきっかけになってとてもよい」「小1 サポーターの導入はよい」「（安全ボランティアの）登下校の見守りに感謝している」の声とともに、「（地域連携の）具体的な内容が分からない」などのコメントがあった。コロナ禍でも、地域との繋がりを維持・活用する工夫が必要であろう。

⑧ 船橋希望学舎

「区立中学校に関する情報提供」について、児童は 48%（「分からない」33%、否定的評価 19%）、保護者は 54%（「分からない」27%、否定的評価 20%）と低い。児童の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」35%（否定的評価 36%、「分からない」28%）、保護者の「学び舎の幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」58%（「分からない」35%）と低い。学舎の活動として小中合同の職員研究会等が実施されているが、保護者・地域からは見えにくい。また、中学校と連携した「あいさつ週間」は、2 学期までは感染予防のため実施できなかった。

⑨ 学校への意見の伝えやすさ

地域の「学校へ要望や意見を言いやすい」が 73%、「学校はいつでも来校者を受け入れる雰囲気がある」が 73%、「学校は要望や意見にすばやく対応している」は 67%と、いずれも低い評価であった。コロナ禍で関わりが薄くなってきているとはいえ、コミュニティスクールに認定された本校として、対策を検討してほしい。

⑩ 学校の安全

保護者の「自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」は 93%、「子どもたちは災害の時、どうすればよいかわかっている」86%、地域の「安心安全な学校づくりを進めている」87%と、高評価である。一方、地域の「安全性を高めようと地域と協力している」73%、「地域と連携して防災教育を推進している」57%と低い。地域との避難所運営訓練ができていないことが理由であろう。地域との地道な協力関係の改善を続けていただきたい。「一人一言」では、コロナ感染防止対策や、不審者対策、入校時のセキュリティ、通学路の交通安全について不安の声があった。

⑪ キャリア教育

キャリア教育は、新学習指導要領実施に伴って、昨年度から加わった評価項目である。児童の「目標をもち、実現に努力している」が 80%、「生き方や将来について考える授業がある」は 66%（否定的評価 21%）であった。

キャリア教育はスタートしたばかりであり、児童、保護者とも戸惑いが見られる。「一人一言」でも、「キャリアパスポートがどう活用されるか知りたい」との声があった。キャリア教育の趣旨を保護者に説明し、理解を得るような努力をしていただきたい。

（学校関係者評価委員会 藤原桂子 勝村静子 岡崎宏 浦五月 豊岡由起子 武田佳子）